

■ 第13回 多摩川流域セミナー

私の考えるTRM ～実現をふまえて～

主催：多摩川流域懇談会

● 日時

・・・ 2003(平成15)年9月6日(土) 10:30～16:00

● 内容

・・・ 多摩川流域リバーミュージアム(TRM)の試行開始から2年が経ちました。

TRMは多摩川流域全体を1つの博物館(フィールドミュージアム)と捉え、誰もが多摩川の持つ価値を共有・学習できるしくみを目指すもので、市民・河川管理者・流域自治体などが協働で取り組んでいくプロジェクトとして期待が持たれています。

これまでの多摩川流域セミナーでは「TRMへの期待」をテーマに議論を重ね、TRMは私たちひとりひとりがつくりあげていくものであることを確認しました。

そして今回のテーマは「私の考えるTRM(実践をふまえて)」です。流域各地からしくみづくりの提案や活動実践の報告があります。

・・・ 10:30 集合後、貸切バスで移動

・・・ 11:00～12:00 現地見学

・・・ 13:30 セミナー開会

経過説明：「多摩川水系河川整備計画の事業メニューごとの進捗状況」(国土交通省京浜河川事務所)

意見交換：(1)「私の実践がTRM(流域各地の取り組み)」

(2)「TRMのしくみづくりに関する市民提案」

・・・ 16:00 閉会

■ 第13回 多摩川流域セミナー 開催報告

私の考えるTRM ～実現をふまえて～

主催：多摩川流域懇談会

2003(平成15)年9月6日(土)、多摩川流域懇談会が主催する第13回多摩川流域セミナー「私の考えるTRM ～実践をふまえて～」が開催され市民、学識者、行政など約70名の参加がありました。

午前：現地見学

午前中は八王子・日野カワセミ会の粕谷さんと、多摩川市民フォーラムの長谷川さんがあきしま水辺の楽校・ワンド周辺から八高線までを案内し、ワンド工事のねらいや工事後の環境変化、多摩川で最大規模のツバメねぐら集団のことも、上総層の化石(アキシマクジラ等)や八高線付近の洗堀状況の説明と簡単な意見交換を行いました。



午後：セミナー

セミナーでは、はじめに多摩川流域懇談会会長の高橋裕氏より「多摩川を良くしていくためのリバーミュージアムは皆さんの意見をうまく集めて立派なものができるよう期待しています」と挨拶がありました。



● 話題提供

京浜河川事務所より「多摩川水系河川整備計画の事業メニューごとの進捗状況」について、計画策定から2年余りを経過した河川整備計画の事業メニューごとの進捗状況の説明と、多摩川流域リバーミュージアム(TRM)構想の中間報告を紹介をいたしました。



「私の実践がTRM(流域各地の取り組み)」では、多摩川流域各地で活躍される、あきしま水辺の楽校の西山さん、かわさき水辺の楽校とどろき校の鈴木さん、自然教育研究センターの小林さん、川崎市立日本民家園の増淵さん、NPO法人自然環境アカデミーの島田さん、多摩川を飲める水にする会の和波さんから活動報告があり、今後のTRMへの期待などについても発言がありました。



西山 さん



鈴木 さん



小林 さん



増淵 さん



島田 さん



和波 さん

「TRMのしくみづくりに関する市民提案」では、横山さんから多摩川流域リバーミュージアム検討協議会の活動と展開についての考え方が、長谷川さんからは多摩川流域懇談会の市民部会が提案する多摩川情報センターの組織・構成とTRMの位置付け、TRM事業とアクションプランが紹介されました。



横山 さん



長谷川 さん

● ディスカッション

これらの話題提供をふまえ、ディスカッション「これからTRMのありかた」では、

- ・ 多摩川全体の情報を集約、交換できる場をTRMに設けるとともに、情報を共有することが大切だ。
- ・ 河川環境への理解を深めながら事業展開をして欲しい。
- ・ 支川などを含む流域全体を活動領域にしてほしい。
- ・ 子供の投網や魚釣りなどを体験できる博物館を考えたらどうか。

など、多くの意見、提案が出されました。



最後に京浜河川事務所長の海野修司より、「今回のセミナーのように市民と行政が参加して議論していくことは大変有意義で、今後も皆様と議論をしていきたい」と挨拶させていただきました。閉会いたしました。



多摩川流域リバーミュージアムの実現は、多くの市民の方々の参加が必要不可欠で、今後とも多摩川流域セミナーなどの場で意見交換をしていきたいと考えています。

また、多摩川水系河川整備計画についても、フォローアップを行っていき流域のみなさまに、積極的に情報提供していきたいと思います。